

提言第 1 号 中心静脈穿刺合併症に係る死亡の分析

事例7

< 事例概要 >

- ・慢性腎不全で維持透析、四肢麻痺で経管栄養中の骨髓異形成症候群の患者。意思疎通困難。
- ・死因は、血管損傷による縦隔血腫・胸腔内出血（推定）。死亡時画像診断（Ai） 無、解剖無。
- ・人工透析のため長期留置型血液透析カテーテルの入れ替え目的で、X 線透視及び、リアルタイム超音波ガイド下に左内頸静脈へカテーテル挿入を試みたが、頸動脈を穿刺。一時止血を得たため、左内頸静脈に再挿入した。その際のガイドワイヤー挿入時に抵抗があり、X 線透視で位置確認を行い30cm 挿入した。挿入部より出血が持続したが、翌日止血を確認した。挿入 2 日後、透析実施中に呼吸状態の変動をきたし、3 日後の胸部単純CT で縦隔血腫を認め、挿入 7 日後に死亡した。